

多文化関係学会 2011年度 第10回年次大会プログラム

Japan Society for Multicultural Relations

大会テーマ:

多文化社会日本の課題—共生と衝突が織りなす^{ラプソディ}狂詩曲—

“Challenges Facing Multicultural Society Japan:

A Rhapsody Textured with Harmony and Dissonance”

2011年9月17日(土)・18日(日)

September 17 & 18, 2011

大会前日 9月16日(金)

プレカンファレンス・ワークショップ

Preconference Workshop September 16, 2011



多文化関係学会 第10回年次大会にあたって



大会委員長 抱井 尚子 (青山学院大学)

このたびの東日本大震災により、被害に遭われた地域の皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

さて、多文化関係学会(JSMR: Japan Society for Multicultural Relations)の第10回年次大会が、来る9月17日(土)、18日(日)に青山学院大学(青山キャンパス)で開催されます。また大会前日の9月16日(金)には、同キャンパスにおいてプレカンファレンス・ワークショップが開催されます。

多文化関係学会は、2002年6月22日に青山学院大学で設立総会が行われ、その後10年を経て再び同大学で10周年記念大会を開催する運びとなりました。この10年間、国際社会においても日本国内においても、さまざまな「価値観」の衝突が生じ、それらを克服するべく共生への取り組みが、かつてないほど重要な課題となってきています。たとえば国際社会では、宗教的・経済的な価値観の対立がテロや武力衝突を引き起こし、日本もそれらの問題と無縁ではありません。また、便利さや豊かさを希求する人間の価値観が、人類と自然環境との共生を困難にしています。さらに本年に日本で起こった大震災は、科学技術に依存する現代社会のあり方に対して自己反省を促すとともに、日本文化において継承されてきた伝統的価値観の貴重さが改めて国際社会に評価されるきっかけとなった出来事であると言えます。

このような状況の中で開催される本大会においては、「多文化社会日本の課題—共生と衝突が織りなす狂詩曲(ラプソディ)—」(“Challenges Facing Multicultural Society Japan: A Rhapsody Textured with Harmony and Dissonance”)という全体テーマを掲げました。一日目は、「共生と衝突」の概念に関する根源的な問い直しのきっかけとして、生物学者の福岡伸一先生による招待講演を予定しています。また、文化的な共生と科学技術とのかかわりについて考えるため、日本国内での多文化共生に関わる実践家と、情報技術分野の研究者を招いたパネルセッションを予定しています。二日目は、「文化」研究を行う上で大学院生が直面する課題を通して大学院教育のあり方について議論します。さらに、大震災の被災地からスピーカーをお迎えして、多文化共生の視点から、震災後に起こった諸問題や被災地の復興について、研究者や実践家がどのような貢献ができるのかという点について議論する予定です。その他にも、比較文化研究におけるバイアスの検証方法をテーマとする大会開催前日のプレカンファレンス・ワークショップ、日本らしさとヒップホップダンスの融合を目指したパフォーマンス実演を披露する懇親会も予定しております。

学会発足10年という節目の年に開催される本大会が、研究者および実践家の皆様にとっても、日本社会におけるさまざまな文化の「共生と衝突」について考え直す節目となれば幸いです。

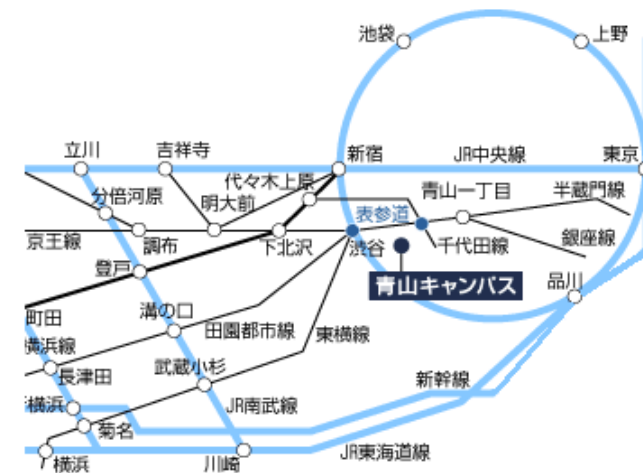
大会日程

	9/16(金)	9/17(土)	9/18(日)	
9:00	/		9:00-9:30 受付 総研ビル 11 階第 19 会議室前	
10:00		9:30-10:00 受付 総研ビル 11 階第 19 会議室	9:30-10:35 研究発表 3 11 号館 4 階 1143 1144 7 階 1170 1171	
		10:00-11:05 研究発表 1 11 号館 4 階 1143 1144 7 階 1170 1171	10:35-10:45 休憩	
11:00		11:05-11:15 休憩	10:45-12:15 オープンフォーラム 「大学院教育を考えるー『文化』を学ぶ大学院生の現状と課題」 11 号館 3 階 1135	
		11:15-12:20 研究発表 2 11 号館 4 階 1143 1144 7 階 1170 1171	12:15-13:15 昼食休憩 ☆ p. 6 のランチマップを参照してください。	
12:00		12:20-13:20 昼食休憩 ☆ p. 6 のランチマップを参照してください。	13:15-14:45 震災ワーキンググループ 「被災地の声ーみえてくる多文化社会の課題と挑戦ー」 11 号館 3 階 1135	
13:00		13:20-13:50 総会 11 号館 7 階 1173	/	
		13:30-14:00 受付 11 号館情報実習室 4 前		
14:00		14:00-17:00 プレカンファレンス・ワークショップ 「比較文化研究におけるバイアスの検証法ー入門編ー」 11 号館 1 階情報実習室 4 (1110 教室)		14:00-15:05 招聘講演 「多文化共生と動的平衡」 11 号館 7 階 1173
		15:00		15:05-15:15 休憩
16:00				15:15-16:45 パネルディスカッション 「ICT が拓く多文化共生の未来」 11 号館 7 階 1173
		17:00		16:45-16:55 休憩
18:00				16:55-17:45 ポスターセッション 11 号館 7 階 1172
	19:00	17:30-20:00 理事会 総研ビル 10 階 第 18 会議室		17:45-18:00 移動
		18:00-20:00 懇親会 ♪An Asian Flavor to Hip-hop Dance ♪(ORIENTARHYTHM and CODE33) 青学会館 3 階 ナルド		

交通アクセス

- ・ JR 山手線、東急線、京王井の頭線「渋谷駅」宮益坂方面の出口より徒歩約 10 分
- ・ 地下鉄「表参道駅」B1 出口より徒歩約 5 分

受付: 正門を入れてすぐ右の総研ビル 11 階 (19 会議室)



大会参加者へのご案内

1. 受付

17日(土) 9時半～10時
18日(日) 9時～9時半



総研ビル 11階第19会議室

で行います。

大会参加費・懇親会費につきましては以下の通りです。

- * 大会参加費は2011年8月19日(金)までにお振り込みください。
(以後は当日扱いとなり、金額が増しますのでご了承ください。)

振込先：三井住友銀行青山支店
口座名：多文化関係学会
口座番号：(普) 7031534

諸経費		事前振り込み(8月19日まで)	当日申し込み
大会参加費	正会員	4,000円	6,000円
	非学会員	6,000円	8,000円
	学生会員	2,000円	4,000円
	学生非会員	3,000円	6,000円
懇親会費	正会員	4,000円	5,000円
	非学会員	4,000円	5,000円
	学生会員	2,000円	3,000円
	学生非会員	2,000円	3,000円
プレカンファレンス	*8月19日(金)までの事前受け付けのみ(先着30名まで) 正会員 3,000円、非学会員 5,000円 学生会員 2,000円、学生非会員 3,000円		

2. クローク

クロークは総研ビル10階第18会議室にございます。

係員より必ず預り証をお受け取りください。なお、貴重品はお預かりできませんのでご了承ください。

受付時間 17日 9:30～18:00、18日 9:00～15:15

*上記時間外のご利用の場合には受付までお申し出ください。

3. 昼食

大会中は夏期休暇期間のため大学食堂は営業していませんが、本学周辺は飲食店やコンビニエンスストアがたくさんございます。ご参考までに巻末に **LUNCHMAP** を添付いたします。また、スタッフにもお気軽にお尋ねください。

4. 休憩室

9月17日(土)、18日(日)の休憩室は、総研ビル11階第19会議室です。
お茶やコーヒーを準備しておりますのでご利用ください。

5. 懇親会

9月17日(土)18時より、青学会館(大学東門<短大門>を出てすぐ左)3階ナルドにて、懇親会を開催します。多くの会員の方々との交流の場となりますよう皆様のお越しをお待ちしています。

6. 総会

9月17日(土)13時20分～13時50分に11号館7階1173にて総会が行われます。
会員の方は、時間になりましたらご参集ください。

7. 書籍販売

総研ビル11階第19会議室(休憩室)にて書籍を販売しております。どうぞご利用ください。

8. 喫煙について

キャンパス内は原則として禁煙となっておりますので、指定された場所以外での喫煙はご遠慮ください。喫煙可能な場所は、7号館1階の喫煙エリアおよび5号館と6号館の建物の間のみです。なお、館内はすべて禁煙となっております。

9. 入会について

当学会への入会をご希望の方は、当日受付でも承りますが、学会ホームページ上で手続きができますので、事前に入会手続きを済ませていただきますようお願いいたします。

*学会ホームページ <http://www.js-mr.org/>

【研究発表者へのご案内】

1. 発表時間

発表時間20分、質疑の時間10分、全体で30分です。時間厳守をお願いします。

2. パソコン

パソコンを使用される場合は、各自ご持参いただき、必ず前もって動作の確認をお願いいたします。パソコンをご持参できない場合は、事前に大会委員会までご連絡ください。

*大会委員会メールアドレス jsmr2011taikai@gmail.com

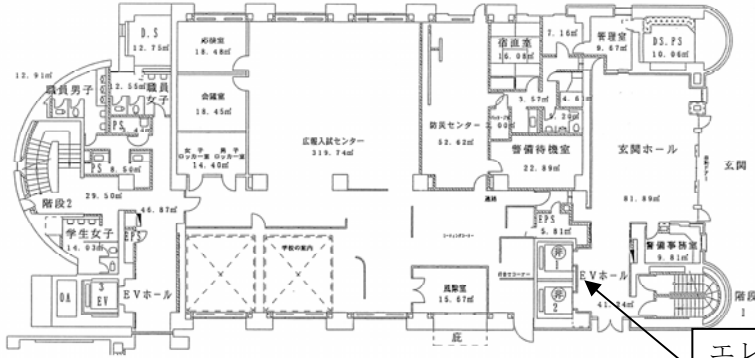
3. 配布資料

ハンドアウトを用意される方は、1発表につき40部ほど各自でご用意のうえ、会場にご持参ください。

*大会委員会では印刷などをお引き受けできませんので、ご了承ください。

会場

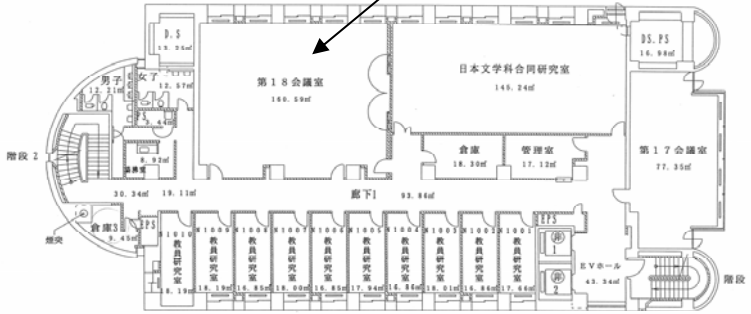
総研ビル1階



エレベーターで受付（11階の第19会議室）へ

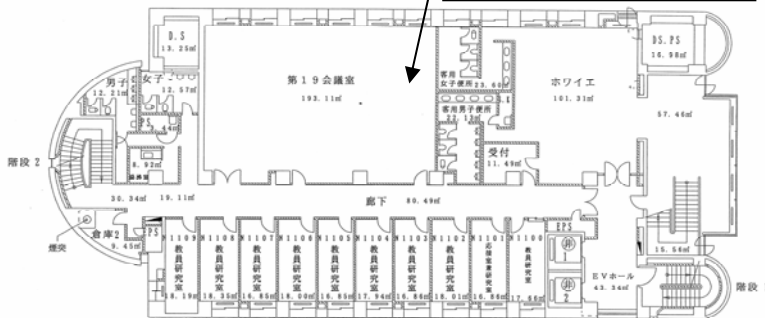
総研ビル10階

クローク
受付時間 17日 9:30~18:00
18日 9:00~15:15



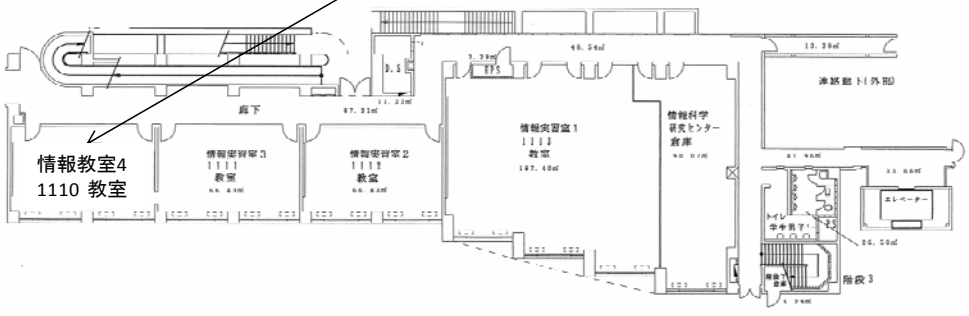
総研ビル11階

受付
休憩室
書籍販売



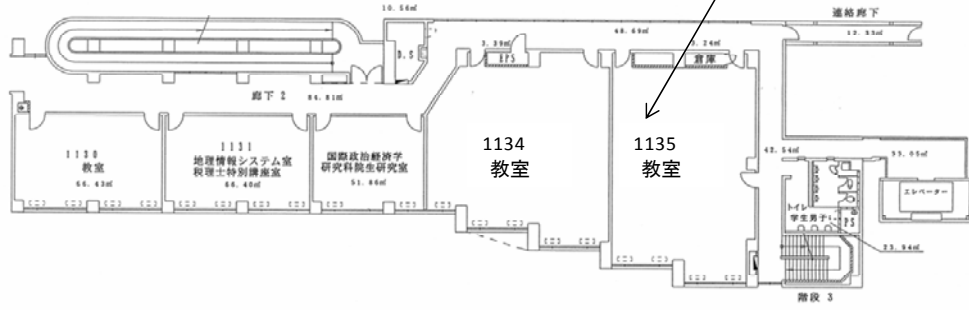
11号館 1階

プレカンファレンス・ワークショップ



11号館 3階

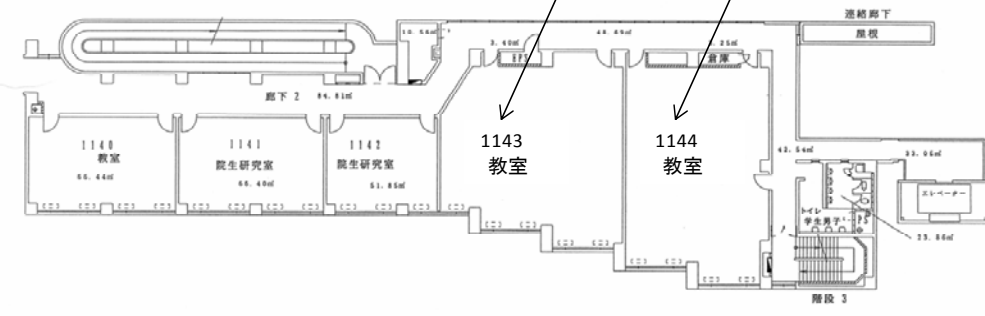
オープンフォーラム
震災ワーキンググループ



11号館 4階

研究発表

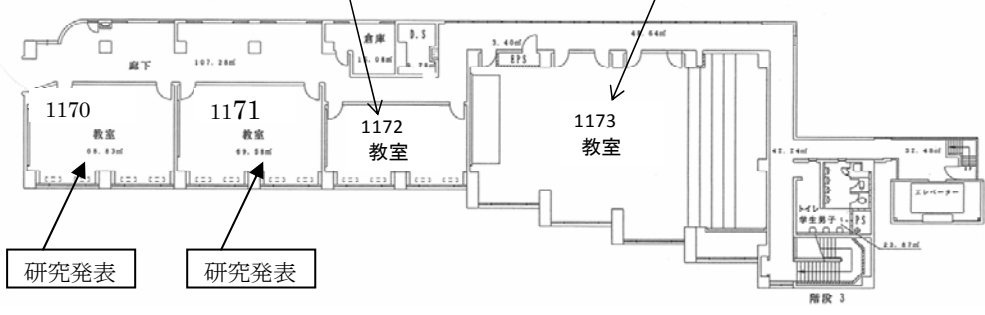
研究発表



11号館 7階

ポスターセッション

招聘講演
パネルディスカッション



9月16日（金）大会前日

13:30～14:00 受付

[11号館1階情報実習室4（1110教室）前]

14:00～17:00

プレカンファレンス・ワークショップ [11号館1階 情報実習室4（1110教室）]

「比較文化研究におけるバイアスの検証法—入門編—」

講師：田崎 勝也氏（青山学院大学国際政治経済学部准教授）

【概要】

このワークショップでは、近年、国際・文化比較調査に限らず、広く社会調査においても関心が高まりつつある測定の等価性（measurement equivalence）の問題について考える。我々の個性が一人ひとり異なるように、調査・質問項目が有する機能も項目ごとに異なる。難しい質問もあれば、易しい質問もある。敏感に反応する項目もあれば、そうでないものもある。調査・質問項目は本来、調査参加者のある特性を測定するために書かれたもので、いかなる参加者にも同様に機能しなければならないが、実際にはこうした質問項目の「クセ」が国籍や性別など調査参加者の属性によって大きく異なってしまう場合がある。これがバイアスとなる。質問項目の機能が参加者の属性によって異なる場合、項目の得点を単純に合算したり、平均値化したりして、集団の特性を比較検討しても意味を成さない。そればかりか、誤った知見を導き出してしまう可能性も否定できない。したがって、いかなる社会調査においても集団間の比較を行う限り、質問項目の機能に違いがないか、つまり測定の等価性が担保されているかを確認する作業が必要になる。

本ワークショップでは、こうした測定の等価性の問題に焦点を当て、項目機能の検証を通して、調査・質問項目に潜むバイアスを見つけ出す統計的手法を学ぶ。前半は測定の理論的側面に触れ、後半は実際にデータを用いて実習を行う。測定の等価性はテスト理論と関連が高く、中には難解な理論や分析法も含まれるが、今回のワークショップでは参加者に初学者を想定し、基本的な事柄を中心に学ぶ。

【タイムスケジュール】

- 14:00～14:10 開会の挨拶、講師紹介
- 14:10～15:40 測定の等価性
- 15:40～15:50 休憩
- 15:50～16:40 データ分析
- 16:40～17:00 質疑応答

*当日の進行具合によっては、多少時間配分が変わる可能性があります。

【講師／ファシリテーター プロフィール】

○田崎 勝也（たさき かつや）氏

ハワイ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了（Ph. D.）。現在、青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科准教授。専門は比較文化心理学、異文化コミュニケーション論、心理統計学。国際・文化比較調査で要となる等価性の問題をテーマに、2008年『社会科学のための文化比較の方法—等価性とDIF分析』（ナカニシヤ出版）を上梓。調査・質問項目に潜むバイアスを検出・排除し、比較文化調査の妥当性を如何に高めるかについて研究中。主たる業績に『コミュニケーション研究法』（共編著、ナカニシヤ出版、2011年）、「文化的自己観は本当に「文化」を測っているのか—平均構造・多母集団同時分析を用いた特異項目機能の検証」（『行動計量学』、34巻、2007年）、「翻訳を検証する—バイアスと翻訳の等価性」（『こころと文化』、第8巻、2009年）などがある。

【申し込み方法】

- 1 参加希望者は、多文化関係学会ホームページ（下記 URL）より登録をしてください。
プレカンファレンス・ワークショップは事前申込みのみの受付になります。
https://swj02.securesites.net/jsmr0901/form/index_attend.html
- 2 プレカンファレンス・ワークショップ参加費と参加費振込先については以下を御覧ください。

参加費：会員 3,000 円、非学会員 5,000 円
学生会員:2,000 円、学生非学会員 3,000 円

振込先：三井住友銀行青山支店
口座名：多文化関係学会
口座番号：（普） 7031534
- 3 定員と受付期限： 定員は先着 30 名とし、8 月 19 日まで受け付けます。

【場所】

青山学院大学（青山キャンパス） 11 号館 1 階情報実習室 4（1110 教室）

9月17日(土) 大会第1日目

9:30~10:00 受付 [総研ビル 11階 19会議室]

10:00~11:05 研究発表1 [11号館4階 1143 1144 7階 1170 1171]

1143	司会：林吉郎（青山学院大学） 日本人留学生の逆カルチャーショックに関する事例的検討 —自己の認知行動的变化と周囲との葛藤を中心に— 高濱 愛（一橋大学）・田中 共子（岡山大学） 米国留学前ソーシャルスキル学習セッションを受講した日本人学生における留学生活 —対人行動と対人関係を中心に— 田中 共子（岡山大学）・高濱 愛（一橋大学）
1144	司会：小松照幸（名古屋学院大学） On the Representation of Ethnic Others in South Korean Films Keehyeung Lee (Kyung Hee University) 日韓ネット世代の対外国人意識—日韓比較調査データからの検討— 湊 邦生（立命館大学）
1170	司会：中川典子（流通科学大学） QOS (Quality of Society) を評価する心理尺度の開発 八木 龍平（株式会社富士通研究所） 「遠慮・察しコミュニケーション尺度」の作成—異文化間比較調査に向けて— 小山 慎治（電気通信大学）
1171	司会：伊藤明美（藤女子大学） 被災地支援におけるメディアコミュニケーションに関する一考察 宗田 勝也（同志社大学大学院） 日本に長期滞在しているイタリア人のアイデンティティの揺らぎ カンパネル ミケーラ（東京外国語大学大学院）

11:05~11:15 休憩

11:15~12:20 研究発表2 [11号館4階 1143 1144 7階 1170 1171]

1143	司会：山本志都（青森公立大学） An Effective Supporting System for Multicultural Households in South Korea: A Case Study of Dongdaemun Borough, City of Seoul Inhee Lee (Kyung Hee University) Yoon-Ja Oh (Kyung Hee University) 多文化社会における日本のソーシャルワークの現状と課題 —国際人口移動を背景とした実践と学問— 添田 正揮（川崎医療福祉大学）
-------------	--

1144	司会：手塚千鶴子（慶応義塾大学）
	リタイア後の海外居住ーロングステイヤーの戦略的マージナライゼーションー 竹内 真澄（明海大学）
	能力認知と実能力の関係における文化の役割ー相互協調性・相互独立的自己観の影響ー 湯澤 剛（信州大学大学院・長野県上田染谷丘高等学校）
1170	司会：根橋（中原）玲子（明治大学）
	「公共的記憶の定義を巡る考察」ー歴史学に果たし得る役割を明らかにするためにー 千葉 美千子（北海道大学大学院）
	異文化ワークショップリフレクションの意義と方法論の考察 ー写真による記憶の再構成と異文化解釈ー ペク ソンス（神田外語大学）
1171	司会：西原鈴子（東京女子大学）
	多文化間コミュニケーションにおける通訳者の役割 新崎 隆子（東京外国語大学）
	中日接触場面の初対面会話における話題選択ー中国語母語場面との対照よりー 李 佳音（九州大学大学院）

12：20～13：20 昼食休憩

13：20～13：50

総会 [11号館7階 1173]

13：50～14：00 休憩

14：00～15：05

招聘講演 [11号館7階 1173]

演題：「多文化共生と動的平衡」

講演者：福岡 伸一氏（青山学院大学総合文化政策学部教授，生物学者）

司会：林 吉郎氏（青山学院大学名誉教授）

【招聘講演概要】

現在、私たちの周りには生命操作を巡る様々な議論がある。遺伝子組み換え、クローン技術、ES細胞、臓器移植・・・これらを可能とする先端技術の通奏低音には、ひとつの明確な生命観がある。それは、究極的に、生命とはマイクロな部品が集まってできたプラモデルであるという見方、すなわち機械論的生命観である。ここに立って、今、私たちはパーツを組み換え、プログラムを戻し、遺伝子を切り貼りしている。

ルドルフ・シェーンハイマーは、生命が「動的な平衡状態」にあることを最初に示した科学者だった。私たちが食べた分子は、身体を構成する分子と絶え間なく交換されつづけている。つまり私たち生命とはプラモデルのような静的なパーツからなりたっている分子機械ではなく、パーツ自体のダイナミックな流れの中に成り立っている効果そのものなのである。

なぜ動的平衡は、ダイナミックに更新されつつも秩序を維持しうるのだろうか。動的平衡は、

ジグソーパズルのピースのように、個々には独立した機能を担わない要素が、互いに他を補完するように組み合わせられてできている。たとえひとつのピースが捨て去られても、まわりのピースが失われたピースの形を記憶している。だから同時多発的に、ピースの更新が次々と進んでもジグソーパズル全体の絵柄はそれほど変化しない。

生命体と生命体の関係も動的平衡である。あるときは食う・食われるの関係にあり、あるときは競合し、また別の時には共生関係にある。そのなかで絶え間なく、物質、エネルギー、情報が循環している。生物多様性は地球の動的平衡を支えるためにこそ必要なのである。

動的平衡は、いつときもとどまらない。そこで起きていることはいずれも一回限りのことである。しかし長い時間のレンジにそれを眺めると、そこには固有の秩序や様式が保たれる。あらたに侵入するものを、すでにあるものが律するからであり、あらたに入ったものがすでにあるものを尊重するからでもある。

その意味で、おそらく社会のあり方、多文化の共生にも動的平衡の概念が適用できるだろう。わたくしの話提供が少しでもみなさまの思考の触媒になれば幸いである。

【講演者紹介】

○福岡 伸一(ふくおか しんいち)氏

生物学者。1959年東京生まれ。京都大学卒。米国ハーバード大学研究員、京都大学助教授、青山学院大学理工学部教授等を経て、現在、同大学総合文化政策学部教授。

研究のかたわら、「生命とは何か」を分かりやすく解説した著作を数多く著す。狂牛病禍が問いかけた諸問題について論じた『もう牛を食べても安心か』（文春新書）で科学ジャーナリスト賞、ノーベル賞受賞の定説に一石を投じた『プリオン説はほんとうか？』（講談社ブルーバックス）で講談社出版文化賞科学出版賞を受賞。また、2007年に発表した『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）は、サントリー学芸賞および中央公論新書大賞を受賞し、ベストセラーとなる。

他に『ロハスの思考』（ソトコト新書）、『生命と食』（岩波ブックレット）、『できそこないの男たち』（光文社新書）、『動的平衡』（木楽舎）、『世界は分けてもわからない』（講談社現代新書）、エッセイ集『ルリボンカミキリの青』（文藝春秋）、対談集『エッジエフェクト-界面作用-』（朝日新聞出版）など、著書多数。「週刊文春」や「AERA」での連載コラムも好評。

現在、ヒトがつくりかえた生命の不思議に迫る番組、NHK-BS「いのちドラマチック」（BSプレミアム毎週水曜日午後7：30～7：59、木曜日午前8：00～8：29）に、レギュラーコメンテーターとして出演中。

近著に、翻訳本『すばらしい人間部品産業』（講談社）。

【司会者紹介】

○林 吉郎(はやし きちろう)氏

青山学院大学名誉教授。米国インディアナ大学大学院経済学・経営学 Ph.D.および同大学ビジネススクール MBA。多文化関係学会発起人の一人、多文化関係学会前会長、専門は異文化マネジメント。最近の研究は、パラダイムシフト、人間コミュニケーション、アナログ・デジタル知覚など。

15：05～15：15 休憩

ICT が拓く多文化共生の未来」

パネリスト：重野 亜久里氏（多文化共生センターきょうと代表）

「ICT による多言語医療支援」

吉野 孝氏（和歌山大学システム工学部准教授）

「ICT による異文化コラボレーション」

稲葉 光行氏（立命館大学政策科学部教授）

「バーチャル空間を用いた日本文化理解支援」

コーディネーター：稲葉光行氏（立命館大学政策科学部教授）

【趣旨】

現在、シリコンバレーに拠点を置く IT 企業から提供される情報技術やサービスが、世界中の政治・経済・コミュニケーションのあり方に大きな影響を与えている。このことから、ICT（情報通信技術）の普及は、世界中の言語や文化に対して、英語という単一言語による支配、あるいは米国流の文化に画一化する力を持っているという指摘もある。

その一方で、言語や文化の壁を超えた対話支援のための、実用的な ICT が提案され始めている。そして ICT を媒介とすることで、言語や文化が異なる人々が情報を交換し、互いの文化を学び、国境を超えて連携するという動きが世界中に広がっている。つまり ICT は、その用いられ方によって、多文化共生に対してネガティブにも働き、同時にポジティブにも働くのである。

このような現状を踏まえて、本セッションでは、ICT による多文化共生の支援について、実践と研究の両面から取り組んでいる 3 名のパネリストがそれぞれの事例を紹介する。そして、最新の ICT が拓く多文化共生の未来について議論を行う。

【パネリスト紹介】

○重野 亜久里（しげの あぐり）氏

北海道札幌市生まれ。大学在籍中に中国雲南省へ留学。1999 年より多文化共生センター・きょうとに勤務。中国系コミュニティを支援するプロジェクトマネージャーとして地域住民と共に、多文化共生の地域づくりに取り組む。2003 年より医療機関へ通訳を派遣する「医療通訳派遣システムモデル事業」を担当。現在はセンターの保健医療事業全般のマネジメントを担当。2004 年より同センターの事務局長に就任。2006 年 7 月より「特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと」代表に就任。

○吉野 孝（よしの たかし）氏

鹿児島大学大学院工学研究科修了。博士（情報科学、東北大学）。専門は情報科学。主な研究活動として、CSCW（Computer-Supported cooperative work）、異文化コラボレーション、医療従事者間情報共有、地域情報共有などに従事。現在、和歌山大学システム工学部デザイン情報学科准教授。主な業績として、「機械翻訳を用いた異文化コラボレーション」（『情報処理』Vol. 47、No. 3、2006 年、共著）、「All for one 型多言語会議支援システムの構築と評価」（『情報処理学会論文誌』Vol. 51、No. 1、2010 年、共著）などがある。

【コーディネーター／パネリスト紹介】

○稲葉 光行 (いなば みつゆき) 氏

ハワイ大学大学院情報・計算機科学研究科修了。専門は学習科学、人文情報学。主な研究活動として、協調学習支援システムの研究開発、活動理論に基づく学習コミュニティの形成、などに従事。現在、立命館大学政策科学部教授。主な業績として、「日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在」(ナカニシヤ出版、2009年、共著)、「インターネット・コミュニティ」(『政策科学の基礎とアプローチ』ミネルヴァ書房、2004年)などがある。

16:45~16:55 休憩

16:55~17:45

ポスターセッション

[11号館7階 1172]

共分散構造分析によるセルフ・モニタリング尺度の等価性に関する日米比較

船越 理沙 (フェリス女学院大学大学院)

田崎 勝也 (青山学院大学)

潮村 公弘 (フェリス女学院大学)

日中異文化接触における日本人ホストとの葛藤分析

—在日中国人の留学、就業場面における適応難易度に関する時系列的検討—

奥西 有理 (大阪大学)

異文化理解に基づく韓国語教育の構築—日本人を対象に—

申 知元 (青山学院大学大学院)

神戸市長田区における阪神大震災からの復興プロセス

—たかとりコミュニティーセンターの外国人支援を中心に—

久米 昭元 (立教大学)

松田 陽子 (兵庫県立大学)

時間経過による新聞記事の視点変化—EPA 看護・介護人材をめぐる報道を中心に—

中野 祥子 (兵庫県立大学)

宮本 節子 (兵庫県立大学)

「がん患者」を語るアイデンティティ・ワーク—他者性のディスコースのポジショニング分析—

岡部 大祐 (青山学院大学大学院)

18:00~20:00

懇親会 [青学会館 3階 ナルド]

♪ An Asian Flavor to Hip-hop Dance ♪

出演 : ORIENTARHYTHM and CODE33

【パフォーマンス概要】

本来、舞踊というものは古代(民族)宗教の中の儀礼であった。「祭り」という文化の中に流れる日本人の魂、神への感謝は様々な踊りとして日本に残っている。同じく HIPHOP の源流はアフリカンダンスであり聖なる踊りであり、精神浄化が目的である。流れている精神、魂は同じで、その融合はある意味必然であると私達は考えている。

【プロフィール】

Kite (ORIENTARHYTHM, CODE33)

中学生の頃に観た TV 番組でストリートダンスを知り、独学でダンスを始める。

18 歳で HIPHOP の本場ニューヨークでのイベントに参加し人種と文化の国際交流を体感する。

国内外を問わず活動する中、2010 年より ORIENTARHYTHM としてフランスの Japan Expo, 中国での上海万博などに出演。現在 CODE33 のメンバーとしても活動中。

CODE33

2008 年結成のダンスチーム。ダンスのジャンルの枠にこだわらず、個人個人の個性を大切にし、独自の世界観を創り出すことを目標とし、様々なイベントに出演。

個々でもバックダンサーやダンスバトル等で活躍。

現在は(株)デュアル・ディーの支援を受け活動中。

【主な出演イベント】

2011 年 2 月 ディズニーランド It's Showtime

2011 年 6 月 DUAL PARTY Vol.3 ゲストダンサー

9月18日(日)大会第2日目

9:00~9:30 受付 [総研ビル11階第19会議室]

9:30~10:35 研究発表3 [11号館4階 1143 1144 7階 1170 1171]

1143	司会：宮原哲（西南学院大学）
	共生と衝突の現場としての「留学」 舩谷 鋭（立教大学）
	コンフリクトにシェイムが果たす役割とその対処法 —患者側の電話相談事例と相談員の語りの分析から— 平山修平(青山学院大学)
1144	司会：小林路義（鈴鹿国際大学）
	子供たちの多文化への気づき—小学校外国語活動を通しての—考察— 大谷 みどり（島根大学） 築道 和明（広島大学）
	沖縄と日本のあいだ —学校教育の視点から— 吉田 直子（聖心女子大学大学院）
1170	司会：石井敏（獨協大学）
	外国人児童の教育支援についての—考察— —磐田市の社会教育的サポートと小山市の適応指導教室を通して— 田中 真奈美（東京未来大学）
	外国にルーツをもつ子どもとモラル—東海地方X市におけるフィールドワーカー— 安達 智史（日本学術振興会）
1171	司会：灘光洋子（立教大学）
	Effectiveness of Issue Advertising Campaigns in Changing Koreans' Perception of South- and Southeast-Asian Migrants and Their Multicultural Families Kyong Ah Hwang (Kyung Hee University Seoul, Korea) Taeyong Kim (Kyung Hee University Seoul, Korea)
	文化本質主義とは何か—「構築主義」「本質主義」論争をめぐる—考察— 長谷川 典子（北星学園大学）

10:35~10:45 休憩

10:45～12:15

オープンフォーラム [11号館3階 1135]

テーマ：

「大学院教育を考える—『文化』を学ぶ大学院生の現状と課題—」

話題提供者：石黒 武人氏（明海大学外国語学部専任講師）

久保田 佳枝氏（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程）

猿橋 順子氏（青山学院大学国際政治経済学部准教授）

岡部 大祐氏（青山学院大学国際政治経済研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程）

石井 英里子氏（東海大学高輪教養教育センター専任講師）

早川 佳乙里氏（上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻博士後期課程）

海野 るみ氏（明治学院大学社会学部非常勤講師）

山下 暁子氏（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻表象芸術論領域博士課程）

コーディネーター：田崎 勝也氏（青山学院大学国際政治経済学部准教授）

【趣旨】

文化を研究対象とした領域では、社会科学の諸分野で培われたディシプリンが複数存在し、研究の射程から理論的な枠組み、そして方法論的な手法に至るまで、さまざまな視点やアプローチがある。優れた研究を行うためには、研究者自身の問題意識を明確化し、学際的な視点から研究計画を洗練させていく必要があるが、この分野に学ぶ大学院生には、こうした文化研究の学術的な多様性から、研究に戸惑いを抱いている者も少なくない。

そこでオープンフォーラムでは、「大学院教育を考える—文化を学ぶ大学院生の現状と課題—」と題して、現役の院生数名に話を聞き、研究の目的と意義、問題意識の持ち方、研究テーマの設定、研究手法の選択などについて、研究を進めるうえで大学院生が抱く疑問点や問題点を明らかにする。さらに、所属すべき学会や留学の是非など、論文執筆以外の研究生生活の疑問点も取り上げる。またこのフォーラムでは、最近大学院を修了した「先輩」数名にも登壇してもらい、現役の院生から出された疑問点や問題点をどのように解決してきたか、彼らの工夫や知恵を共有する。

【話題提供者紹介】

○石黒 武人（いしぐろ たけと）氏

立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程修了（異文化コミュニケーション学博士）。対話的構築主義アプローチのライフストーリー研究を用い、日本の多文化組織で働く人

びとの認識世界を研究している。

○久保田 佳枝（くぼた よしえ）氏

関東学院大学経済学部非常勤講師。企業経験をいかして、多文化企業で働く日本人従業員のメンタルヘルスをテーマに研究。大学時代より量的研究に関心を持ち統計的分析法を学び、現在は、KJ法やGTAなどの質的分析法も勉強中。

○猿橋 順子（さるはし じゅんこ）氏

青山学院大学大学院国際政治経済学研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程修了。博士（国際コミュニケーション）。在日外国人の言語意識、言語対応、言語とアイデンティティの研究に取り組んでいる。主な著書に『コミュニケーション研究法』（ナカニシヤ出版）、『国際言語管理の意義と展望』（アルク）がある。

○岡部 大祐（おかべ だいすけ）氏

杏林大学保健学部、東海大学外国語教育センター非常勤講師。取り組んでいる研究テーマは、コミュニケーションの中の「病気・病者」。共訳に『グラウンデッド・セオリーの構築：社会構成主義からの挑戦』（ナカニシヤ出版）がある。

○石井 英里子（いしい えりこ）氏

上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。日本学術振興会特別研究員を経て現職。研究テーマは「日本の学校教育における国際語としての英語教育と異文化教育の統合的実証研究」。

○早川 佳乙里（はやかわ かおり）氏

研究テーマは「日本における国際理解教育の理論と実践の検討」。修士論文では、日本の国際理解教育について、大正初期における沢柳政太郎の活動を中心に歴史的に検討した。

○海野 るみ（うみの るみ）氏

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科教育学専攻(修士)、博士課程より文化人類学に転向し、南アフリカ・ケープタウン大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻単位修得退学。主に南アフリカの「カラード」と呼ばれる人々の歴史／記憶とその語りや表象についての研究を行う。主な業績に「〈歴史〉を営む—南アフリカのグリクワ独立教会における〈歴史〉の共有」（『呪術化するモダニティ』、風響社）がある。

○山下 暁子（やました あきこ）氏

専門は音楽学、民族音楽学。アジアにおける西洋音楽の展開に関心をもち、タイをフィールドにして同国での西洋音楽導入を推進した人物についての資料及び聞き取り調査や、現代のタイの音楽状況への影響についてフィールドワークに基づく研究を進めている。

【コーディネーター紹介】

○田崎 勝也（たさき かつや）氏

ハワイ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了(Ph.D.)。量的・質的を問わず、経験的な文化研究における方法論の問題に関心がある。主な著書に『コミュニケーション研究法』（ナカニシヤ出版）、『社会科学のための文化比較の方法』（ナカニシヤ出版）、『多文化・共生社会のコミュニケーション論』（翰林書房）など。

12:15~13:15 昼食休憩

13:15~14:45

震災ワーキンググループ

[11号館3階 1135]

テーマ：「被災地の声—みえてくる多文化社会の課題と挑戦—」

話題提供者：李 善姫氏（東北大学国際高等融合領域研究所助教）

金井 里弥氏（東北大学大学院教育学研究科 教育設計評価専攻博士後期課程）

コーディネーター：渋谷 百代氏（埼玉大学経済学部准教授）

【趣旨】

東日本大震災の社会的インパクトは甚大であり、日本の多文化性、グローバル性に潜む問題も様々な現象として現れてきている。それは、被災地における外国人住民の乖離感、国際結婚の破綻、コミュニティの越境や解体、という多文化共生の問題であり、また、各国支援との連携、海外メディア報道と情報開示、国際観光への影響といった国際コミュニケーションの問題である。多文化関係を研究領域とする研究者が集まり、まず被災地での状況について情報を共有し、そこから取り組むべき課題は何かをともに考え、整理することで、今後の動きにつなげるきっかけの場としたい。

【話題提供者紹介】

○李 善姫（い そんひ）氏

韓国で大学を卒業した後、日本の東北大学で修士、博士号を取得。専門は文化人類学。東北日本と韓国をフィールドに地域社会におけるコミュニティと女性を比較研究。最近では、韓国と日本の農村地域で増えている外国人花嫁をめぐる地域政策や地域変容をジェンダー問題と多文化共生問題の側面から比較研究している。東北大学 GOCE「グローバル時代のジェンダー平等と多文化共生センター」の連携研究員を兼務。

○金井 里弥（かない さとみ）氏

教育学を専門とし、公教育における宗教理解学習の在り方を、主にシンガポールをフィールドに研究。多宗教社会における共生の在り方を問う中で、近年は教育人類学、宗教学の領域にも注目している。2009年より仙台青葉学院短期大学にて非常勤講師を務める。

【コーディネーター紹介】

○渋谷 百代（しぶや ももよ）氏

豪州で PhD を取得後、日本のメディア・シンクタンク等勤務を経て現職。専門は国際コミュニケーション。最近では国際対立・紛争におけるメディア戦略、越境コミュニティのアイデンティティと資料館コンテンツ分析のプロジェクトを中心に研究活動を行う。著書に PhD 論文をベースにした *Interethnic Attitude that Matters* (2010)。

ホテル情報

・サクラ・フルール青山

東京都渋谷区渋谷 2-14-15
<http://www.sakura-hotels.com/>

03-5467-3777

・渋谷東急イン

東京都渋谷区渋谷 1-24-10
http://www.tokyuhotels.co.jp/ja/TI/TL_SHIBU/

03-3498-0109

・島根イン青山

東京都港区南青山 7-1-5
<http://www.shimane-inn.com/>

03-3797-3399

・渋谷エクセルホテル東急

東京都渋谷区道玄坂 1-12-2 渋谷マークシティ内 03-5457-0109
<http://www.shibuya-e.tokyuhotels.co.jp/ja/>

・セルリアンタワー東急ホテル

東京都渋谷区桜丘町 26-1
<http://www.ceruleantower-hotel.com/>

03-3476-3000

・ホテルフロラシオン青山

東京都港区南青山 4-17-58
<http://www.kourituyasuragi.jp/hotels/15aoyama/>

03-3403-1541

・渋谷グランベルホテル

東京都渋谷区桜丘町 15-17
<http://www.granbellhotel.jp/>

03-5457-2681

・ホテルメッツ渋谷

東京都渋谷区渋谷 3-29-17
<http://www.hotelmets.jp/shibuya/>

03-3409-0011

・東急ステイ渋谷新南口

東京都渋谷区渋谷 3-26-21
<http://www.tokyustay.co.jp/hotel/SIM/>

03-5466-0109

第10回年次大会・大会準備委員会委員

大会委員長	抱井尚子（青山学院大学）
大会副委員長	河野康成（立教大学リーダーシップ研究所） 田崎勝也（青山学院大学）
学会長	松田陽子（兵庫県立大学）
学会事務局長	抱井尚子（青山学院大学）
大会委員	浅井亜紀子（桜美林大学） 石黒武人（明海大学） 稲葉光行（立命館大学） 井上美砂（青山学院大学） John E. Ingulsrud（明星大学） 海谷千波（東京都立小岩高等学校） 久米昭元（立教大学） 小坂貴志（神田外語大学） 猿橋順子（青山学院大学） 渋谷百代（埼玉大学） 原和也（明海大学）

学生スタッフ

青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学会3・4年生
青山学院大学国際政治経済研究科国際コミュニケーション専攻修士課程学生
聖心女子大学大学院 博士後期課程学生

【連絡先】

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学国際政治経済学部 抱井尚子研究室内 多文化関係学会・大会準備委員会

メールアドレス：jsmr2011taikai@gmail.com

電話番号：(03)3409-8111、3409-6417(研究室直通)

学会事務局

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学(青山キャンパス)国際政治経済学部・抱井研究室内

メールアドレス: admin@js-mr.org

学会ホームページ: <http://www.js-mr.org>

LUNCH MAP

The map shows a grid of streets with 'OVAL PLAZA B1' at the top and '246' running vertically. A 'LUNCH MAP' logo is on the right. Numbered locations (1-15) are marked with arrows pointing to various restaurants and cafes. Key landmarks include '青島大学本部' (Qingdao University Main Building), 'OVAL PLAZA', '美泰道駅' (Meitaidao Station), and 'KUNIAINA'.

Locations and Restaurants:

- 1**: 青島 (Qingdao) (中重) 日食 11:30~14:30 520円 / 弁当380円
- 2**: CIVETIA (中重) 11:30~16:00 1000円
- 3**: 246+ (中重) 12:00~16:00 950円
- 4**: 福縁 (中華) 11:00~14:00 780円
- 5**: カフェ (和食) 11:00~23:00 11:00~15:00 810円 / 弁当1400円
- 6**: 246+ (和食) 11:00~15:00 弁当500円
- 7**: 246+ (和食) 11:00~15:00 500円
- 8**: Coffee Dining AUDENE (中重) 11:30~15:00 890円
- 9**: CAFE & MEAL MUTI (中重) 11:00~22:00
- 10**: 胃塾 (中重) 11:00~14:30 800円
- 11**: To The Herbz (中重) 11:30~21:00 650円
- 12**: KUNIAINA (中重) 11:00~22:00 900円
- 13**: 野越家 (和食) 11:45~14:30 800円
- 14**: OVAL PLAZA (中重) 11:00~21:00
- 15**: 短大 (短大) 11:00~19:00

Other Labels: 至 渋谷, 至 美泰道駅, 至 246, 至 14, 至 7, 至 15, 至 14, 至 13, 至 12, 至 11, 至 10, 至 9, 至 8, 至 7, 至 6, 至 5. 青島大学本部, OVAL PLAZA, 美泰道駅, KUNIAINA, 胃塾, To The Herbz, CAFE & MEAL MUTI, 短大, 246+, Coffee Dining AUDENE, CIVETIA, 福縁, カフェ, 野越家.